

拝啓 今年も早や7月下旬、暑い夏となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。7月は木の花が少ない時期で、むくげが咲いています。

今月は、『ミス・ローラ・J・モーク その信仰と生涯』(3)をお送りします。先月号に書きましたが、昭和20年8月17日、小石川白山教会の藤田昌直牧師と石館守三先生が収容所に入れられているモーク先生の引き取りについて相談しました。藤田先生が「収容所から出られるモーク先生を、教会の牧師として迎えたい」と相談をしますと、石館先生は、全面賛成されました。「牧師が先生を迎えるというのであれば、自分は自分の家を提供し、出来るだけの後援をしたい」と即答されますが、すごい決断をされたものと思います。石館先生の人生における決断の中でも、重要な決断の一つでしょう。結果的に石館先生の信仰が充実し、学者としての研究活動が進むことになったといえます。南原先生の「信仰はすべての真理を背後から支える」という「価値並行論」からいえばそう解釈できます。

7月17日、18日と、野県穂高町で開かれた鳥居勇夫さんの別荘で開かれた名古屋聖書研究会の夏の集いに今年も参加しました。今年は、学生時代からの友人の下澤悦夫君と一緒に参加し、わさび園・井口基源治記念館・碌山美術館を自転車で回り、夜は遅くまで昔話にふけり、楽しい旅でした。

聖書集会では、鳥居さんの話の後、神谷美恵子先生のご次男の神谷徹さんのリコーダーと藤森いづみさんの電子ピアノの演奏がありました。お二人の伴奏で、この秋100歳になられる日野原先生のハッピー・バースデーの歌を合唱しました。あとで、少しの時間神谷さん御夫妻と話す機会がありました。私の尊敬する神谷美恵子さんの息子さんと話ができて本当にうれしく思いました。ストロー演奏による音楽活動を仕事としてやっているということでしたので、帰って早速妻に友の会で、神谷さんの演奏会を開いて下さいと頼んでいます。

17日は穂高町の交流センターで、月本昭男さんの「ギルガメッシュ叙事詩」と日野原先生の「愛とゆるし」という講演がありました。日野原先生の講演は、去年と同じように、立って歩きまわりながら1時間半はなされましたがお元気でした。その朝3:00から5:30頃までは、NHK松本放送局で、ナデシコ・ジャパンとアメリカの女子サッカー決勝戦を観戦・コメントされて、寝ておられないということでした。早朝の試合の様子を、特にゴールキーパーの活躍ぶりを手ぶり足ぶりで説明され、最後に、「日本も女性の総理大臣が出ればよい」とまで言われました。毎日暑い日が続きますが、お体御自愛下さい。

平成23年7月25日

山口周三

エンカウターの読者各位